



留学生と語り合う No. 82

RKKニュース

(2021年 新年号)

NPO 法人 留学生と語り合う会(RKK) Relationship and Kindness are the Kings of Peace

コロナ禍の支援・交流

このRKKニュースにはコロナ禍での留学生支援活動について多くの寄稿を戴きました。

RKKの活動は交流によって人と人とを密にすることを基盤としていますが、現状はコロナによってそれが断たれている状況です。現状、直ちにコロナの暗雲が晴れる状況にもなく、With coronaの声も聞かれます。このような状況下で留学生への支援・交流、会員間の交流等を如何にして絶え間なく続けるかがRKKの当面の課題であろうかと考えます。

各種オンライン画像通信システム（以下、オンライン）が普及し、画面越しではありますが、交流できることを実感しています。現在、オンラインの勉強会を開催している地区もあり、オンラインを利用した地区交流会、委員会等が始められています。大学ではオンライン講義が広く実施され、留学生はそれに慣れていきます。このような現状において、留学生への支援・交流を維持するためにオンラインの活用を少しでも広めることがRKKのコロナ対応策の一つと言えるでしょう。

このオンラインの活用を広めるには課題（システム導入や操作方法の習熟等々）もあります。それにはその分野の有識者のご尽力を戴くことも望まれます。一方、オンライン化に伴い言葉の比重が増し、言葉の深化が望まれる（大学関係者）とも云われ、日本語支援には望ましいこともあるようです。

オンライン交流は、直接対面のような「密」は望めませんが、「心は密」にして、留学生との交流を絶やさないように望みたいものです。

After coronaの暁にもオンラインの利用は続くであろうと予想されており、支援・交流方法の多様化が期待できます。早々にコロナが退散し、晴れやかな時がくることを新年に当たり祈願します。

(深水)

Support and Exchanges during the COVID-19 Pandemic

For this RKK News, we've got many contributions about supportive activities for international students under the COVID-19 pandemic.

RKK's activities based on close relationship between people have now stagnated due to the Coronavirus. As the difficult situation might last for some time, we will have to get used to the "new normal". In such circumstances, our immediate task will be how to continue our support for international students and exchanges with them and among RKK members.

Recently, with the spread of online meeting tools, we have more experienced online interaction such as study sessions, area exchange meetings and committees. International students are also familiar with online communication through university online classes. Thus, it will be one of the RKK's measures for COVID-19 to expand utilization of online tools to continue our support and exchanges.

There are some issues to expand it such as introducing system and learning how to operate it, so the advice from experts in that field is required. For supporting Japanese language, raising the quality of words is needed as the importance of words grows with the expansion of online communication.

Although we are not able to have physically close communication online, we would like to keep mentally close relationships with international students.

Diversifying methods of support and exchanges including online communication is expected to continue even post-COVID. Celebrating the new year, I hope the COVID-19 dies down and the bright future comes soon.

(Translated by Azusa Sugita)



オンライン講習会

Zoom 南地区講習会

南地区 永作重夫

11月8日、11人の参加にて、コロナ対策を実施し開催しました。留学生と直接面談出来ない今、オンラインでの面談は必須かと思えます。

1) Zoom への参加者としての対応

Zoom 参加者としての対応を学習しました。パソコン等に、Zoom のアプリを入れることが最優先です。アプリ獲得して、1対多人数での Zoom 会議を実施しました。参加者としてすぐに会議に入れました。招待状をもらうことで、Zoom での面談が可能となります。留学生にホストを実施してもらえば即対応可能となります。

2) Zoom にホストとして対応する場合

ホスト対応の場合は、アカウントを獲得しないとイケないので、パソコンを主に説明しました。割とパソコン対応は簡単なので、ホストとして可能となりました。しかし、スマホとタブレットの場合は、少し違うので、対応できなかった方がおられました。このアカウント獲得段階が難しいのかなと思えます。あきらめずにチャレンジすることかと思えます。ホストになれば、主体的に開催できるので、留学生のみならず友達等とのオンライン会話も対応できます。ぜひともホスト対応まで頑張ってください。皆さん熱心なので、あとは留学生との Zoom 会議を積み上げることで、使い方は修練するでしょう。

3) 今後の対応

- ① YouTube：勉強用の講座がいろいろあります。多くの方が利用しています。(何度も聴けますし、ゆっくりさせることも可能です。)
- ② Line：メモ連絡、簡単な資料、写真送付、通話、ビデオ通話に活用できます。
- ③ Gmail：スマホでもパソコンでも同一内容のメール対応が可能ですので、確認する頻度が上がります。

Line—メール (パソコンメール、携帯メール、Gmail) —Zoom を利用して留学生との連絡、面談の幅が広がると思えます。



北地区オンライン講習会を振り返り

北地区 島田信広

10月31日(土)に旭区市民活動センター(みなくる)にて北地区オンライン講習会を開催致しました。今回は、座学+各自所有の機器(PC/スマホ)による体験形式で行い、約10人が参加しました。

講習の内容は、①Zoom 紹介(ビデオ会議、画面共有、チャット、ホワイトボード)とその体験、②機能比較(無料版/有料版、Zoom/Teams)、③活用事例紹介(海外接続による日本語授業)で、約1時間半の講習です。

開催により見えた課題があります。一つは場所の問題です。会場によってはWiFi設備が無く、個別にWiFi機器を用意する必要があります。みなくるも同様でした。二つ目は体験機器の問題です。皆さんお手持ちの機器で体験を希望されますが、それぞれ環境が異なり、講習前にWiFiやZoom接続に苦労されます。事前に接続のための時間が必要です。



新しい生活様式への対応が求められる中、R K Kも日々の支援活動に変化が必要と感じています。その柱が日本語支援のオンライン化と考えます。しかし、課題もあり、一つは会員のマインドチェンジです。対面支援の良い点は多々ありますが、オンラインもしかりです。留学生の希望に沿うため、一人一人がオンライン化に取り組む意識変革が必要です。二つ目は、会（R K K）としての支援です。各地区に推進役を立てたり、定期的な講習会を開催したり、会員の取組みを支援する仕組みが必要です。三つ目は、オンラインが浸透するまでのステップを踏むことです。各地区のオンライン人材の現状把握を行い、地区を越えた支援体制を整えるなど、柔軟な対応をするのが良いと思います。様々な課題はありますが、力を合わせ、更なる会の発展に繋げていきたいと思っています。

留学生からのたより

コロナ禍と留学生

Trinh Thanh Luan (チン タン ルアン) (ベトナム) 横浜国立大学



令和2年の終わりで日本に来て3年になりました。この3年間の中で、2年間日本に留学し、残りの1年間はもう一つの国に来て留学したと言えるほど、留学生の私たちの生活が大きく変わりました。今日は、その原因である新型コロナウイルスと一緒に過ごした1年間の経験について、シェアさせていただきます。

一人暮らしの私にとって、この1年間で世界は1つの部屋に縮小していったようです。オンライン授業、オンライン飲み会、オンラインインターンシップなど、今まで一回も想像したことがないものがたった1年で普通なものになりました。しかし、この1年のおかげで、家族・友人と一緒に過ごす時間がどれほど重要・貴重であるかもわかるようになりました。コロナ禍で、毎日、家族と一緒に過ごすことができ、羨ましいねと、国に帰られない私はよく日本人の友達に言いました。

この1年間で、大学の授業も大きく変わりました。Zoomなどを通じて、対面授業のように行う授業があれば、先生からもらった資料・ビデオを参考しながら、自分で勉強するオンデマンドの授業もあります。先生に質問をすること、友達と相談することが対面授業のように、簡単にできなくなりましたが、オンライン授業でもたくさんの利点があると思います。対面授業の場合、1つの授業は1時間半ですが、学生の能力によって、それ以上の時間が必要な授業とそこまで時間がかからない授業があります。そのために、自分の能力と合わせて勉強すれば、時間を節約できて、より深く理解できると思います。一方、オンデマンド授業もたくさんありますので、自分で資料を探し、自分で勉強・研究する能力も身につくことができます。これは理系の学生の私たちだけではなく、どんな分野の人にとっても重要な能力だと思います。

現在の状況で、日本語能力、コミュニケーション能力が低下し、コロナに関する情報がない、仕事がないなどのことに困っている留学生がたくさんいると思います。今は、留学生と語り合う会（R K K）のサポートを最も必要としている時です。私の提案ですが、オンライン日本語勉強会、就職活動の中のオンライン面接練習、留学生のためにコロナの情報・求人情報をまとめてR K Kのホームページに掲載するなどの

活動を行えば、留学生にとって大変助かると思います。ぜひ、留学生の私たちがコロナ禍を乗り越え、各自の夢を実現できるように、ご支援を宜しくお願いいたします。（原文のまま）

コロナの影響

Dyah Candra (ディア・キャンドラ) (インドネシア) 東京工業大学大学院



2020年の年明けを迎えて私はとても楽観的でした。新しい十年に向かってオリンピックを楽しみにしていました。ですが、このような楽観的な雰囲気は短い時間しか感じられませんでした。武漢で初めて検出された新型コロナウイルス感染症の拡大で、世界中の日常生活や計画や予定を延期したり変更したりしなければなりません。新しい病気でインフルエンザのように感染力が高くて、感染拡大を抑えるために色々な対面の活動はできるだけ避けなければなりません。その結果、人間の歴史では初めて戦争以外の理由でオリンピックが延期になりました。ですが、留学生の私にはオリンピックの延期の影響は余りないと思います。

留学生の私が一番気になることはコロナの影響による研究活動の中止です。6週間ぐらい学校が閉鎖しましたから、その間何も実験できませんでした。その後少し学校に行けるようになっても研究活動は100%できるわけではありませんでした。入室人数と研究時間の制限がありましたから。悔しくても、安全のためですから、何も言えませんでした。少しの時間でも研究を進められるのはありがたいです。これは、先生方と学校のスタッフのおかげです。

自分自身の経済に関しては奨学金で賄われている私にはとくに不安はありませんでした。アルバイトも少しやっていますが、発送会社ですから逆に仕事が増えて来ました。ですが、周りの人からいろいろな辛い話を聞きました。帰国できない友達やアルバイトまたは自分のお金で賄っている友達の話を知ると、心が痛みました。友達はもちろん給付金の対象者ですが、給付金を貰うまでは厳しかったです。精神的に、とても辛かったです。ストレスが溜まっても普通のストレス解消法はできませんでした。友達と一緒に外食もできなくて、お店も大体やっていないから小旅行に行ってもなかなか何もできませんでした。

また、予定通り帰国できないと、お金の問題はもちろん、家族にも会えず寂しいです。私費で賄っている友達は、アルバイトができなくなって、大変困りました。

夏の前半ぐらいまではずっとこのような状況で不安一杯でしたが、現在学校の状態は大部分もとに戻ってきました。もちろん、感染拡大防止対策にそって研究活動を行うわけですが。

ですが…最近のニュースを見ると微妙な気持ちになります。一方で、いいワクチンの候補がありそうですが、全国、特に東京の新感染者の数が増えてきました。Go To キャンペーンの影響が見えるようになってきたな～と思います。ですから、今の私はとても心配です。来年の卒業のために実験と論文作成に力を入れなければなりません。また学校が閉鎖になったら、どうなることでしょうか？（原文のまま）



留学生の就活

就職活動体験談

李佳玲 (中国) 元早稲田大学大学院



就職活動は学生の皆さんにとって必ず経験する人生の一大事だろう。だが、留学生からは、日本の就活において具体的にどうすればいいのかさっぱり分からないという声が多く聞かれる。この投稿では、私の個人的な視点から自分の就活を振り返りながら、いくつか留学生の皆さんへのアドバイスを述べていきたい。

まず、「就活開始時期を意識しよう」。

中国を一例としてあげると、就活というのは、とりあえず履歴書をひたすら会社に送れば良いというイメージが強い。なので、筆記試験の準備などはあまり重視されていないと言える。しかし、日本の場合、早い段階にSPIのような筆記試験があり、特に数学問題はかなり難しいと思う。したがって、できるだけ早めに筆記試験の準備をしよう。4月からスタートするのは遅すぎる！

また、「他者の力を借りること」。

ここで言う「他者」とは、学校のキャリアセンター、先輩、同期などを指す。キャリアセンターから様々な情報が手に入るし、先輩からは経験談が聞ける。また、同期と一緒に面接の練習もできる。他人だからこそ客観的な視点から自分に対する評価が得られるので、どんどん面接もうまくなっていける。このように、就活においては「一人だけでは勝てない」ということを肝に銘ずべし！

最後は、「自信」だ。

外国人だから言語が問題になるかと思ったら、つい弱気になってしまうだろう。面接の際に、逆に外国人をアピールポイントにしてみよう。異文化交流経験、語学力、日本人と異なる物事の考え方など、外国人のあなたならではのアピールポイントを考えてみてください。

心から留学生の皆さんの就活大成功をお祈りします。(原文のまま)

就活のコツ

徐駿 (中国) 元横浜国立大学大学院

横浜国立大学大学院環境情報学府修了後、現在、佐藤総合計画東京本社第1設計オフィスに所属する徐駿です。仕事に入ってから既に半年が経過しましたが、時間の速さを感じながら、自分の就活経験を踏まえ、雑談させていただきます。もし皆様のご参考になれば幸いです。

私は、学部生の時から日本の建築を好きになって、最初日本へ留学した時点で、日本で就職することを決めました。しかし、学生の皆さんと同じように入りたい業界には全然わからなかった状態でしたが、入学試験を合格してから積極的に情報を手に入れるため先輩に聞きながら、早くインターンシップやアルバイトなどの形式として、建築意匠設計の仕事をやってみました。そして、やく年半の間、4社での実務経験を通じて、自分の能力及び心よりやりたいことを再認識しながら、どのような会社に入りたいのか



を明らかにしました。就職の意識及びそれに適応する能力をあらかじめ用意しましたので、正式な就活した時に余裕を持って順調に内定をもらいました。

つまり、初心を忘れず日本での就職意識を確固し、正式な就活をするまえに自分か入りたい業界に触れることで積極的に情報収集を行い、仕事の魅力や心よりやりたいことを発見することには、コツじゃないかなと考えています。もちろん、就活には断られる時や自分自身の能力を疑う時は常にあります。その際に、あせらず冷静的に原因や欠点を分析し、対策を考えることがとても重要だと思っています。友達や友人に相談など、就活中のストレスを解消できるための方法も大事です。また、もし同じ就活の方がいれば、お互い励ましながら、頑張っていくのは一番良いと思っています。

最後、皆様の就活が成功できるように、心よりお祈り申し上げます。（原文のまま）

オンラインによる留学生の就職活動支援

東地区 田中和生

私は、就職活動支援を中心に活動を進めておりますが、昨年4月頃から新型コロナの影響で、対面での支援が困難になりました。しかしながら就職活動は待ったなしです。そこで、初めてZoomを活用し、活動を進めました。因みに、今では大半の企業が会社説明会やインターンシップ、採用面接をオンラインで実施するようになってきています。私は、留学生の意向を尊重の上、可能な限り対面での相談・支援を行うようにしておりますが、オンラインを併用することにより、場所と時間の自由度が増し、さらには今までできなかったことも可能となりました。例えば、北京で就職した元留学生に協力を依頼し、横浜・東京に住んでいる三人の後輩に海を越えて助言をしてもらいました。また、新型コロナで再入国できなくなった天津に住む留学生に対し、オンラインで支援を行いました。さらに、大阪で働く元留学生の転職相談も行なっています。日常の個別支援についても、オンラインであれば移動時間も不要で、留学生の要望に合わせて自由に時間設定が可能となり、より頻繁にきめ細かな指導ができるようになりました。今後もオンラインを併用することにより、より充実した支援ができればと考えております。

会員募集中



留学生と一緒に国際交流を楽しみましょう。RKKでは下記のプログラムを用意していますので、皆様のご希望に合わせて、留学生と様々な交流ができます。

- ・日本語学習支援（留学生と一対一で日本語の勉強、会話をします）
- ・文化・ファミリー交流（フェスティバルを開催し、異文化交流を深めます）
- ・社会・工場見学（工場見学、名所ハイキングに行きます）
- ・中国語学習（留学生が先生となって、中国語を勉強します）

RKKの活動に興味をお持ちの方は右のコードを読み取るか、**RKK NPO**で検索して、RKKホームページにアクセスしてください。会報や最近の行事案内などをご覧いただけます。

入会フォームはホームページ「入会案内」から入手できます。

日本語支援

私の日本語サポート

中央地区 宮崎明子



10年ほど前に偶然、RKKの日本語の教え方講習会に申し込み、講座終了後に3人の留学生の日本語サポートをしました。事情があり休会していましたが、昨年再入会して、今年2月に紹介されたのが、横浜国立大学で Infrastructure and Urban Society を専攻している Phoo Pwint May さんで、ミャンマーでは JICA のプロジェクトでコンサルタントをしているそうです。彼女には週に1回、横浜国大近くの私の家に来てもらっています。日本語は1～2週間学んだだけということで、『まるごと』というテキストで入門から始めました。大学院の授業は英語だけだそうです。前期は大学で日本語を学んでいましたが、現在は日本語をとれなかったため、日本語に触れるのは私と過ごす時だけです。単語や漢字を週1回で覚えるのは大変なので、Line で写真と一緒に送って予習に役立ててもらっています。ビデオや音声教材なども取り入れています。

日本語だけでなく、ニュースや話題の人、アニメなども、テレビやインターネットを使って紹介しています。そして私もミャンマーのことを教えてもらっています。コロナの感染が減っていた9月には一緒に大さん橋や MM21 に行き、楽しいひと時を過ごしました。

せっかく日本に留学しているのに、コロナで大学の授業はほとんどオンライン。日本で様々な所へ行って見聞を広める機会なのに、外出もままならない毎日は思い描いた留学生活とは違うのではないかと思います。緊急事態宣言中は奨学金を出している団体から自宅にいるようにと連絡があり、日本語も中断せざるをえませんでした。再開する時には、サポートを始めたばかりだったのでマスクをしての対面にしました。もし再度緊急事態宣言が出た場合には、オンラインにすることも考えています。

私の日本語支援

西地区 藤縄 裕子



コロナ禍の中、皆さんストレスの多い生活を送っていらっしゃると思います。私は、現在中国からの3人の留学生を担当しています。そのうちの一人Sさんは、正月に中国に一時帰国し、コロナのため日本に戻ることができなくなってしまいました。なかなか連絡がとれなかったのですが、やっと連絡がとれました。現在、日本の大学の大学院の授業を中国でリモートによって受けています。彼とは Zoom を使っていろいろ話をしています。日本語を使う機会が少なく、私との Zoom での会話が良い日本語の勉強になっているようです。

あとの二人は、日本にいますがコロナのため、大学院の授業は Zoom で受けています。私も Zoom で二人と話をしたり、論文の添削をしたりしています。私はコンピューターにあまり詳しくないのですが、スマホの Line と PC を使って留学生に教えてもらいながら、なんとか Zoom を PC にインストールすることができました。今も留学生に招待してもらっている状態です。コロナで家にいることが多く、友達ともあまり会えない毎日ですが、憂鬱な毎日の中、Zoom で留学生と話をするのが、私にとって大きな楽しみとなっています。コロナは人と人が直接会うことを難しくしていますが、大変な時だからこそ、人と人との関係を大切にしていきたいと思います。コロナが早く収まることを願いつつ、「そんなこともあったね。」と言える日を待ち望んでいます。気持ちだけは前向きに頑張りたいですね。

文化・ファミリー交流

お琴の美しさ

張 恬 (中国) 元横浜国立大学大学院

2017年7月6日、RKKが主催した七夕祭りのイベントで初めて富志乃先生と出会った。落ち着いた上品な淡いピンクの着物を身に纏った先生が美しい音色を響かせたシーンを忘れられない。その日からお琴との縁が始まった。



最初のお稽古では、礼儀正しい立居振る舞いを身につけるように、何回も襖の掛け締めを真似する練習をしたり、正座でお辞儀をする練習をしたり苦労した。背筋を伸ばして美しいお辞儀をすることが相手への敬意や思いでもあると今は思っている。私にとって、お琴を学ぶというのは、音感やリズムなどお琴の基本を学ぶだけでなく、礼に始まり、礼に終わるという一種の修業でもあった。

色々練習したあけく、先生に誘われて、三鷹六瓢庵、横浜国立大学観月の会やつかお結び広場など様々なイベントで出演できて美しい思い出を残せた。着物を着て舞台上に立つ数分間が至福の時間であるが、その前にそれなりの練習が必要である。

一つの曲を仕上げるためには、曲の内容を理解したうえで、録音を流しながら練習を繰り返さなければならぬ。観月の会では、珍しい難曲を先生の歌と三味線に合わせるようになっていたが、学会の研究発表も迫っていたので諦めもしたかった。しかし、富志乃先生から私の為を選んでくださった和紙で飾られた楽譜を渡されたときに、いつもそばで励ましてくれたRKKの皆さんと研究室の友達のことを思い出し、元気を出して本番に臨む覚悟ができ難関を乗り越えた。

メロディをただ楽譜通りに弾くのではなくそこから作曲者の思いを読み取り、それを音に表現するように今は頑張っている。社会人一年目である私のせかせかしているremote workの生活のなかでは、お琴と一緒に過ごす時間は自分にとって疲労や不安から離れる時間である。今後も先生のお教を肝に銘じ、お琴の美を追求しつつお琴との絆を深めていきたいと思う。(原文のまま)

よこはま夢ファンドのご案内



横浜市には、ボランティア団体の支援を目的とした“よこはま夢ファンド”の制度があることをご存知でしょうか。このファンドを通じてRKKの留学生支援活動を支援していただくことができます。ご協力をお願い申し上げます。税制上の優遇措置などの詳細はよこはま夢ファンドで検索してください。

「交流だより」文化・ファミリー交流パートナーシップ

文化・ファミリー交流グループ 萩原 敦

文化・ファミリーパートナーシップ会員間の情報共有のために、2018年9月から毎月1回メール配信している「交流だより」は、この1月のメールで第29号となりました。

RKKでは、文化・ファミリー交流パートナーシップのプログラムを2008年4月から始めました。RKKのおもな活動は、留学生との1対1の日本語支援ですが、環境の変化により、留学生の入会目的として、日本語支援のみならず文化・ファミリー交流を希望するケースが増え、一方、日本人会員のなかには、留学生との文化・ファミリー交流を楽しみたいとの要望が多くなってきましたので、新たに文化・ファミリー交流を目的とした1対1のパートナーシップを展開することになった次第です。お陰様で2年半の間に登録された留学生会員は50人、日本人会員は26人になりました。これらの会員のなかで、帰国した留学生や退会した日本人会員を除くと現有会員は、留学生24人、日本人23人です。

「交流だより」は、文化・ファミリー交流パートナーシップに登録された日本人会員と、日本語支援と文化・ファミリー交流の両方を希望した留学生を支援されている日本人会員に向けてお届けしております。読みやすく、フレンドリーなスタイルで、「いろんな情報」「皆さんからのお便り」「イベントなどの予定」「なるほど！そうだね。」をメール形式に書いたものです。お便りには、皆さんから留学生との交流の近況とか、既に帰国した元留学生から会員あてに届いた便りの紹介、絵画展への出品、伝統楽器の演奏、音楽鑑賞、留学生と一緒に家庭料理を楽しんだことなど、色々な交流事情を伺うことができます。配信をご希望のかたは、ご一報ねがいます。



留学生のお子さんに
絵本の贈り物

文化・ファミリー交流活動を振り返って

文化・ファミリー交流グループ 徳屋 英生

2020年度は当交流活動にとって経験したことのない1年でした。RKKの3大イベントであるお花見、七夕祭り、文化祭がすべて中止となりました。音楽鑑賞、美術鑑賞活動も多くのコンサート、美術展が開催中止となり活発な活動はできませんでした。

伝統楽器演奏活動も、明治学院大学戸塚祭、戸塚おむすび広場、横国大観月の会が中止となり演奏を行うことができませんでした。

横濱国大IMP留学生との交流活動についても日常の家族ぐるみの交流は制約を受けました。

IMPの帰国留学生の発表会もオンラインでの実施となりお別れパーティは中止でした。新規のIMP留学生はいまだ来日に至っていません。

フェリス女学院大学留学生の留学体験報告会もオンラインでの開催でした。かかる厳しい状況ながらグループの一部各員はライン、ズーム、フェイスブックなどを使って交流を続けることができました。また、毎月交流だよりを発行しグループ会員間の情報交換を行うことができました。

昨年度の不自由な経験より、通常我々が各種交流活動を通じ、いかに元気をもらい、刺激を受け充実した生活を送ることができていたかを実感しました。

今年度はぜひ普通の生活、活動ができることを願い今できる感染拡大を防ぐ生活を送りたく思います。



フェリス女学院大学の留学生発表会

中国語学習

中国語教室の感想

さい えん い
齋 晏蔚 (中国) 横浜国立大学大学院



2019年4月に私は中国語講師として、RKKの中国語教室に参加しました。過去の2020年で、人々の生活は極大な変化を起こりました。私達の中国語教室もこのような環境で、オンライン授業の新しい授業方に変えてきました。このような授業は多くの人にとって初めてのことなので、最初は授業の進み方に少し心配しました。しかし、皆さんは授業のやり方に関して、いろいろなアドバイスを提出してもらい、授業がスムーズに進むことができました。しかも、オンライン授業には、私のパソコンの画面を皆さんにリアルタイム共有することができるので、写真や動画資料を皆さんに共有しながら単語などを説明することは、より理解しやすくなりました。

実は授業中、私は中国語を教えるだけでなく、皆さんから日本語や中日文化の違いを勉強してもらいました。確率論から見ると、人と人の出会いは奇跡と言っても過言ではありません。私にとっては中国語教室の思い出は輝いているもので、この奇跡を大事にしたいと思います。(原文のまま)



RKKホームページをお訪ねください



ホームページは随時更新しており、「会員のひろば」も開設いたしました。「会員のひろば」を通じて留学生に対する支援、交流体験の他、コンサート、映画、絵画などの文化交流情報にも利用できます。掲載希望の会員はメッセージをRKK広報委員会スタッフにお知らせください。

・投稿先アドレス：sugita1526@ybb.ne.jp

・掲載ホームページ：<http://rkk.world.coccan.jp/> または、**NPO RKK** で検索。

ホームページへのアクセスには、右のコードをスキャンしてください。

広報委員会では皆様からの広場への寄稿をお待ちしております。

広報委員会

地区からのたより

コロナ禍で新たな交流会を模索しました

東地区 宮地明男

前号までの報告の通り、東地区では今年予定した3月と6月の交流会をいずれも中止しました。コロナ禍が続く中、公共施設で対面する会員の交流が懸念されたので、9月と12月の地区交流会はWeb会議ソフトZoomによるオンラインで実施しています。

9月は初めてのオンライン交流会で、事前にWeb会議の準備を数回に分け行いました。まずスタッフほか既にオンラインの実績がある会員に呼び掛け、8月初めにミニ会議を開き、段取りを確認したり、ネット接続練習の事前テストも行うことにしました。その延長で新入会員のオリエンテーションもZoomで行っています。9月の交流会には10人参加し、久しぶりの顔合わせで、新入会員や新スタッフの挨拶がありました。

その後、コロナウィルスの感染増加が止まず、12月の交流会も開催方法を見直すこととなりました。本来なら12月は忘年会を兼ねた懇親会を開きますが、それは無理なので、留学生に呼び掛けWeb上の懇談会を発案しました。同時に新スタッフの田中さんが国際学生会館を中心とした留学生との多彩な交流活動を展開しているので、その話を30分拝聴することに決めました。

無料アカウントによる40分という時間制限があるので、説明会・交流会・懇談会の三つをそれぞれ毎正時に始め、20分の休憩を挟んで繋いでいくという、やや雑駁なイベントでしたが、幸にも深水理事長・萩原さんを初め地区会員や参加留学生の協力で無事終わることができました。各部とも約10人の参加です。質疑応答などの進行途中で切れてしまい、Web会議ならではの難しさも感じましたが、今後も対面交流の代替手段として取り組んでいきます。



懇談会場面の様子とプレゼンタイトル

中央地区のたより

中央地区 畔取 孝

中央地区では、昨年は交流会を一度も開催できずにあります。そのため、会員の皆さんの近況連絡を受け、そのまとめを皆さんに配信することで交流会に替えています。その近況を見ると、コロナ禍における日本語支援においていろいろな動きがありました。

日本語支援では、Zoom活用による日本語支援への移行、県民センターが使用できないことにより別の場所での日本語支援の再開、加えて、私も含め留学生との連絡がつかない状況も発生しました。そして、文化祭などの留学生との交流の機会がなくなったことも大きな動きでした。そのような状況の中でも頑張っている方がおりますので、紹介させていただきます。村田さんはコロナ禍でも会員の方々のオンラインによる日本語支援ができるようにRKKホームページに留学生の日本語支援に向けたZoomおよびTeamsの基本的な操作を紹介され、その啓発、普及をはかられています。私もZoomでホスト役をするときにその手順を参考にさせていただきました。



オンラインによる勉強の場面

また、岩科さんは、毎年秋の文化祭で日本文化の茶道を通して留学生の皆さんと交流することを楽しみにされています。しかし、去年は文化祭が中止となってしまいました。それにもかかわらず、コロナ禍でも茶道のお点前を自宅で練習されていました。さらに、岩科さんが所属されているカルチャーセンター修了者の茶道サークルも昨春以来の活動休止を解いて、11月から文献講読形式で再開され、茶道の歴史や各々の点前の意味に触れながら、次の文化祭の再開を楽しみにされています。お二人とも留学生の日本語支援のために、また留学生との交流を楽しみに活動されています。お二人の活動のように、今の時期はできる範囲で地道な活動であっても継続的にすすめることが大切ではないかと考えます。

おもな活動 (2020/11 から 2021/1 まで)

スタッフミーティング

- ◇12/26 開催予定の 2020 年度第 3 回スタッフミーティングは、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛のために、サポートセンターでの会議は取りやめ、各スタッフからの報告メモを 19 ページにわたる報告メモ集として編集し、メールで配信し、情報を共有した。

活動グループ

- ◇日本語支援 G：秋の日本語の教え方講習会、RKK フェスティバルでの日本語スピーチ大会の開催は中止。オンラインによる日本語支援を推進。
- ◇文化・ファミリー交流 G：秋の RKK フェスティバルでの文化祭は中止。
毎月「交流だより」を発信し、会員間の情報を交換。
- ◇中国語学習 G：週 1 回の Zoom オンライン授業を継続。オンライン忘年会も実施。
- ◇社会・工場見学 G：コロナ禍のため、秋の見学イベントは中止。

地区交流会

- ◇東地区：12/13 に 10 人の参加のもと Zoom オンライン交流会を実施。
- ◇西地区：10/25 にフレンズ戸塚で交流会を開催し、6 人が参加。とつかお結び広場ではパネル展示。
- ◇南地区：11/8 に中区民センターで 12 人が参加した交流会を開き、オンライン勉強会を実施。
- ◇北地区：10/31 に「みなくる」で、交流会とオンライン会議を同時開催。12 人が参加。
- ◇中央地区：11 人の会員から近況報告を収集し情報を共有。
- ◇湘南地区：メールによる 13 人の会員からの便りをまとめ情報交換。

委員会

- ◇会員委員会：会員名簿の更新、マッチングの実施。
- ◇広報委員会：RKK ニュース 82 号の編集。PDF の配信を主体とする。
- ◇キャリア支援委員会：12/18 にオンラインで委員会を開催し、RKK ニュースへの記事掲載を決定。
- ◇企画委員会：会議室予約システム対応。
- ◇会計委員会：立替支払い処理、収支決算作成。
- ◇事務室：横浜市市民利用施設予約システム、横浜市市民協働推進センター、横浜市社会福祉センターへの団体登録を実施。スタッフミーティング報告メモ集の作成。

トピックス

「ひらつか市民活動推進月間」に参加

ひらつか市民活動センターでは、11月に市民活動の支援、活動団体の交流を推進のための催しが開催されました。ただし、コロナ禍での展示物やネット配信等による活動紹介、また独創的なマスクの展示もありました。1日のみのセミナーやワークショップ等のボランティアフォーラムも開催されました。

RKK（湘南）は平澤さん、佐々木さんのご尽力で団体紹介のチラシと活動内容を説明したポスターで参加し、展示されました〔写真参照〕。市民活動センターには市民が三々五々展示物を参観する市民の姿がありました。RKKの活動が平塚の多くの方々の目に届くことを期待します。（深水）



留学生の皆さんへ / For International Students

Let's join one-to-one Japanese language teaching program by volunteers.

- ・ 日常会話 (Daily Conversation)
- ・ ビジネス会話 (Business Conversation)
- ・ 卒論、レポートの文書支援 (Writing Japanese Theses & Reports)
- ・ 新聞／書籍等の読解 (Reading Newspaper & Books)
- ・ 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test)
- ・ 就職活動 (Job Hunting・Entry sheets/Interviews)

Enjoy visiting plants/ laboratories and participating in various cultural exchanges.

Contact: 津田(Tsuda) e-mail; sakura_tsudakei@ybb.ne.jp

Home Page : <http://rkk.world.coocan.jp/>

Scan this code for getting application form



NPO法人 留学生と語り合う会



連絡先 : 〒245-0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦

e-メール : rkk1025office@yahoo.co.jp Tel & Fax: 045-813-8327

ホームページ : <http://rkk.world.coocan.jp/>

Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers

RKKニュース編集 : RKK広報委員会 (新年号担当) 深水智明 Jan.28.2021

無断転載をお断りします。